

全柔連 だより

題字/嘉納行光

●発行人/上村春樹 ●編集/広報委員会 ●発行/財団法人全日本柔道連盟(<http://www.judo.or.jp/>)

「原点」と「本物」を東京より発信

「世界柔道選手権2010東京大会」開催へ

東京では52年ぶりとなる世界柔道選手権大会が、いよいよ大会開催に向けて、本格的な準備に入りました。

この大会は、本年9月9日～13日までの5日間、東京・国立代々木競技場において、男女各7階級と無差別で行われます。

今大会より各国各階級2名エントリーが可能となり、総勢700名を超える参加選手により、白熱した戦いが展開されます。



東京大会の開催にあたって世界柔道選手権大会が、昭和33年の第2回大会以来、実に52年ぶりに東京で開催されます。

講道館柔道は明治15年に東京・下谷で生まれたわけですが、その後、昭和31年に東京・蔵前国技館で「第1回世界柔道選手権大会」が開催されたあと、昭和39年の東京オリンピックで正式競技となったことを契機として世界に普及し、世界有数の競技人口を持つスポーツとして飛躍的な発展を遂げてきました。現在199の国・地域で行われています。



全柔連会長 上村春樹

この間、競技としての柔道に幾多の変化・変遷がありましたが、昨年末、「正しく組んで、よい姿勢で試合をする」ことを狙いとしたIJF試合審判規定の一部改正が行われ、「本物」の柔道を目指す第一歩を踏み出しました。折しも

今年は嘉納治五郎師範生誕150年の記念すべき年でもあります。

また本大会より、各国各階級で2名のエントリーができることとなり、700名を超える大選手団が国立代々木競技場に集います。日本代表選手にとって厳しい戦いになりますが、地元開催でもあり、32名の日本代表選手への期待は極めて大きいものがあります。これに応えていかねばなりません。

一方、柔道は「礼節を重んじ、立派な態度で試合に臨む」心、柔道修行の究極の目的である「己を完成し、世を補益する(自己の人格を完成し、社会に貢献する)」心、という柔道修行の持つ精神的・教育的側面が高い評価を受けて世界に広く普及してきたわけですが、本大会は、柔道発祥の地・東京で開催される大会として、この「柔道の心」を示す舞台でもあります。

国内外から多くの方々が見えます。大会運営、大会の盛り上げにも、全力を尽くしてまいりますので、柔道界各位のご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。